



特集：特別セミナー「頭蓋骨診断法」

どんな素晴らしい
テクニックも、患
者の要望に合わ
ない治療法だ
ったり、的外れ
な部位におこな
っては効果あ
りません。

PCA会長 宮野博隆



また、治療理論の進歩とともに、新しいブロックテクニックも開発されました。新しく開発された「排出ブロック」は、CSFのつまりを極端に減らし吸収性を良くしますので、症状の改善に非常に役立ちます。しかし、使うには注意しなければいけない部分がありますので、詳しくはベーシックセミナーへご参加ください。

それでは以下、特別セミナーの内容を紹介したいと思います。

◆ ◆ ◆ セミナー内容

☆CSFプラクティス哲学

CSFプラクティス的な物の考え方を、治療法の選び方と関連させてわかりやすく解説。

☆頭蓋骨診断法

新たに発見されたポイントや、クラニアルポイントなどを活用することで「今、どこの内臓や筋肉に、何をすべきか？」がわかる。

☆最新の研究で解った治療理論

- CSFの排出、吸収の理論
- 後頭骨ポイントが示しているものの新たな意味
- ストレッチ、硬縮、K、G、Jの理論と、治療のタイミング
- 痛み（症状）が発生するメカニズム 他

【写真はクラニアルポイント耳】

協会が設立されて、来月で4年目を迎え、各セミナーともますます盛況をみせております。また、治療技術の研究も進み、理論がより明確になったことで、さらに理解しやすくなりました。

来月には、参加者が100名を超える「第5回特別セミナー（頭蓋骨診断法）」の開催をひかえ、ますます充実しております。



今回は、来月行われる特別セミナーの内容を一部紹介したいと思います。今回特集するのは「頭蓋骨診断法」。「今、どの部位（内臓・筋肉など）に、何をすべきか？」がわかるセミナーになっています。

協会員の先生方が治療をして「今、どこに、何をすればよいのだろう？」「どこまで治療を進めたらよいのだろう？」「どこで治療を終えればよいのだろう？」と

悩んだことはありませんか？このことを判断するには、まず、第一に、患者さんの治療目的が何なのかが重要になります。患者の治療目的と食い違った的外れな治療法ではいけないのです。患者の治療目的に基づいて治療の方向性（治療計画）を決めることが必要なのです。若返りを主体にした体質改善を求めている場合と、どこか辛い所を楽にする症状改善を求めている場合では、当然、判断が異なります。



「頭蓋骨診断法」と、それを十分活用するための応用法（治療方法の選び方）、いわゆる【CSFプラクティス的なものの考え方＝こういうときはこう判断する】というものを身につけて、的確に判断できるようにになれば、確固たる自信をもって治療を行えます。